



第 229 回例会

日 時：平成 26 年 11 月 13 日(木) 8:00～9:00

場 所：野外研修の往路バス内

出席者：32 名 欠席者 38 名 出席率 45.7%

(会員総数 70 名 休会 0 名)

開会 野口例会副委員長の司会で開会

本日の配布資料の確認。バースデーカードの贈呈(11 月生まれの方)はバス内ですので 12 月例会に贈呈します。

1. 挨拶 土井会長

おはようございます。今日は素晴らしい天気恵まれ、それだけで嬉しくなってしまいます。目的地は江の島の水族館と遊行寺などです。最近の水族館は非常に発達していて、新江ノ島水族館は初めてなので期待しております。藤沢の遊行寺は一遍上人の開基された時宗の総本山で、踊念仏に由来しています。そうした由緒あるお寺を見られるのは結構なことです。本日は勉強をし、大いに楽しんでいただければと思います。

2. 幹事報告 武田幹事

3 点について報告します。

① 活動準備資金特別会計の創立 20 周年事業会計への振替については、10 月 16 日に三菱東京銀行から東京都民銀行へ振込みが完了しました。

② 11 月 4 日に開催した創立 20 周年記念事業第 3 回準備委員会の主な報告事項

事業費の概算が示された。準備委員会の中に総務(幹事が担当)と広報誌の二つの部門を新設した。

③ 東京八王子プロバスクラブ講師派遣制度の利用
NPO 法人著作権推進会議が 11 月 15・16 日のいちよ

う祭りに絵手紙教室を開催するので、その指導者の派遣要請があり、池田ときえ会員が対応することになりました。是非お立ち寄りを。

3. 委員会報告

(1) 例会委員会 野口副委員長

出席会員数の報告(32 名参加)

(2) 情報委員会 河合委員長

プロバスだよりの 228 号をお手元に。今月の編集担当は橋本鋼二委員。投稿原稿が 4 編掲載され充実している。今後ともご協力を。

(3) 会員委員会 岡本委員長

会員の増強については新たな会員の推薦について会員の皆さんにお願いしている。会員委員会としても、率先して増員を図る努力をしてきた結果、今回素晴らしい女性の方を推薦できることとなった。本来なら、今日の例会でご紹介するべきですが、何分にも車中ですので、12 月の例会でご紹介したいと考えている。

(4) 研修委員会 石田委員長

本日の野外研修会には 32 名のご参加を得た。御礼申し上げたい。お手元のパンフレットは後程ガイドの方から説明する。

(5) 宇宙の学校プロジェクト 下山リーダー

プロバスだよりの先月号に 9 月の実施状況が掲載されている。10 月の学校には、9 月とほぼ同数の参加者があった。11 月には 3 回の開催が予定され、30 日(日)の教育センターでの開催が本年度の最後となる。見学とご協力をよろしくお願いしたい。

(6) 交流担当 浅川理事

11 月 23 日に横浜で開催される第 6 回全日本プロバス協会総会の出席予定者には、すでに資料がお渡ししてある。会場の関内駅には横濱プロバスクラブのメンバーが案内役として待機されている。

4. 創立 20 周年記念事業準備委員会報告

吉田事務局長

準備委員会は月に 1 回開かれ、11 月 4 日に第 3 回が開かれた。その内容は次の通り。

- ① イベント会場となるオリンパスホールは予約手続きが完了した。
- ② 招待を予定していた、いわき市の小学校児童は、先方の都合で辞退された。
- ③ 記念式典を予定している京王プラザホテルとの打ち合わせを行い、予約が確定した。
- ④ 記念誌関係については、15 年から 20 年のクラブの流れが分かるものとし、写真の数を増やしたい。発行については、式典の内容を織り込みたいので、10 月 18 日以降とする。
- ⑤ 幹事の報告にもあったが、事業関連の予算案については、12 月の準備委員会での検討の結果を待って報告したい。
- ⑥ 今後の準備委員会の運営等について、例会とのコミュニケーションを図るために、武田幹事に準備委員会の総務担当をお願いした。また、広報資料の整理のために、八木啓充会員に準備委員会のメンバーとして入っていただくこととした。

5. 同好会報告

歴 史: 11 月 1～2 日に新潟「縄文土器を観る旅」を実施。ハードな日程だったが、「火焰土器」を堪能した。

写 真: 11 月 18 日の秋の撮影会は人員に余裕有り。ご参加の方は申し込みを。

囲 碁: 秋季囲碁大会で橋本剛二会員が優勝。

麻雀: 11 月 18 日の例会に多数の参加を。

俳 句: 10 月 20～21 日で山梨の昇仙峡に一泊の吟行会を実施。(同好会活動報告は P7 に)

6. その他

同好会助成金について 山口副幹事

12 月例会の際、同好会活動費として、1 クラブ 5,000 円をお渡しする予定。

いちょう祭りについて 佐々木研吾会員

第 35 回いちょう祭りの資料 2 枚が配布され、プロバスメンバーが関係するイベントの紹介と「通行手形」の購入の勧めがあった。

いちょう祭り講師派遣について 池田会員

いちょう祭り F 会場の長房市民センターで絵手紙講習を担当します。指導内容は、クリスマスのお手紙、年賀状を含めた簡単なものになります。

7. 閉会の挨拶 永井副会長

以上で第 229 回の例会を終わります。今日一日を大いに楽しみましょう。

野外研修の報告

磯 洋一編集担当

圏央道の整備効果により、新江ノ島水族館に 30 分以上前に到着。メインのイルカショーまでの時間に大分余裕があり、入館したところで全員の記念撮影。この水族館の特色として、江の島に面する相模湾に棲む海洋生物の展示が充実していることから、まずは相模湾大水槽のダイバーによるショーを見学。さらに深海生物の展示、幻想的なクラゲファンタジーホールなどを三々五々見ながら、主な目的であるイルカショースタジアムへ。ここは屋外なので天気が良いにもかかわらず強風が吹き、少し寒さを感じながらの見学でしたが、ダイバーとのコンビの良さやイルカの豪快なジャンプに感動させられました。



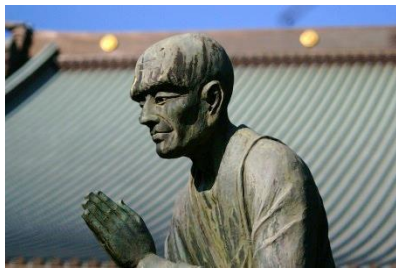
12 時近くに江の島に渡りまずは「貝作」にて磯料理の昼食。その後自由散策とい

うことで、江の島の見どころと言われている江の島展望台愛称「江の島シーキャンドル」、江島神社と岩屋洞窟、龍恋の鐘、稚児ヶ淵等々、それぞれに謂れがあるようで興味をそそられましたが、年齢と体力、そして時間を考えて、私はエスカレーターを利用して「江の島シーキャンドル」へ一人黙々と向かいしました。

展望台のエレベーターに乗り、ふと顔を上げると目の前に池田ときえさんが居てびっくり。展望台からの眺めは天気が良く風もかなり強いせいか富士山をはじめ三浦半島、房総半島などが望め快適な眺望でした。池田さんは強い風による白波が岩に砕けて作り出す泡の模様に感激していました。さすが絵手

紙達人の感性だと感じ入ったところです。帰りは数人で自前の足で集合場所まで下りてきました。

最後の目的地の遊行寺は、正月の箱根駅伝のとき



によく聞く名前ですが、今回の研修でさわりの少しですが解ったような気がします。遊行寺は通称で本来は

清浄光寺と云い、時宗の総本山で 1325 年の開山だそうです。寺院内には国宝が 1 点、国指定重要文化財が 4 点、国指定史跡が一か所有るそうです。

内部の見学はできず、一遍上人の銅像、樹齢 600 年と言われる見事な大銀杏、1859 年建立で菊の御紋と三つ葉葵が刻まれている中雀門などを見学。最後に集合写真を撮り帰路に着く。



報告事項

1. 全日本プロバス協議会報告

全日本プロバス協議会副会長

立川 富美代

北九州プロバスクラブ 15 周年

平成 26 年 11 月 11 日、北九州プロバスクラブ創立 15 周年記念祝賀会に出席

会場：ホテルアルモニーサンク

日時：平成 26 年 11 月 11 日 11 時開演

内容：挨拶、祝宴、コンサート

190 名の参加を得て大変なごやかな祝賀会であり、全日本プロバス協議会会長代行として、ごあいさつを申し上げます。

第 6 回全日本プロバス協議会総会

日時：平成 26 年 11 月 23 日 13 時より

会場：神奈川県民ホール（小ホール）

総会：挨拶・来賓祝辞等

議事：事業報告、決算報告、会計監査報告、事業計



議長

画、予算案、会則改正、役員改選
新役員紹介、新クラブ紹介（奈良・横浜グリーンの 2 クラブ）

アトラクション：ミニ演奏会
懇親会

会場：中華街「萬珍樓」

宴会：17 時～19 時 30 分

全国から 240 名の参加をいた

だき、無事総会を終えることができた。

特に八王子からは 21 名の参加をいただき感謝にたえません。1 年間会長代行を務め、この間、八王子プロバスクラブの皆様から多大なご支援をいただき、心からの御礼を申し上げます。立川富美代（総会の内容は次号で報告の予定）

2. 八王子「宇宙の学校」報告

9 月度実施報告

情報担当 有泉裕子

「宇宙の学校」第 2 日は、9 月 7 日（日）本部（教育センター）会場で 65 組の親子が参加しました。下田会員の司会で始まり、「ペーパースチロールで凧を作ろう」、「スポイトロケットを作ってうちあげよう」の作業を行いました。凧は手早く完成し、会場の巡回コースを歩くだけで、凧があがることに子ども達はとても満足げでした。スポイトロケットは少



スポイトロケット工作風景：本都会場

し細かい作業でした。スポイトを発射口に差し、空気を入れてレバーを押すと天

井高く飛び、子どもたちは歓声をあげていました。最後に野口会員の「帆船凧」の披露があり会場を沸かせました。

北高校会場は北高生主体の運営で、9 月 27 日（土）23 組の親子が参加し、「星砂で星座絵を作ろう」、「熱

気球を作ってうちあげよう」に取り組みました。

星砂は種子島で採取された 1～2 ミリ程の炭酸カルシウムの有孔虫の殻で、沢山の殻の中から星や太陽、銭の形のものを選び、ボンドで星座の形に台紙に張り付ける作業でした。

熱気球では、薄いビニール袋 4 枚を貼り合わせ、1 ヶ所に熱風の吹き込み口を設け、大人が協力して袋に熱風を吹き込み、打ち上げました。体育館の天井まで熱気球が上昇する様はとても壮観でした。

工科大学会場は工科大生が運営の主体となって対応し、9 月 28 日（日）82 組の親子の参加を得て開催されました。テーマは「ホバークラフトを作ろう」でした。工作はやや複雑でしたが、出来あがったホバークラフトの動きが素晴らしく、会場は一気に盛り上がりました。

閉校後も学内広場で走らせて楽しんでいる親子が何組もいたほどでした。

10 月度実施報告

「宇宙の学校」第 3 日、本部会場のスクーリングは 10 月 19 日（日）、51 組の親子が参加して開催されました。宮城会員の司会で進行し、最初のテーマ、「星砂で星座絵を作ろう」は、白い砂から、星砂を選び、黒い台紙に星座の形に貼り付ける細かい作業でしたが、子ども達は熱心に取り組んでいました。

次のテーマ「熱気球を作ってうちあげよう」では、熱風をドライヤーで吹き込む小型の気球作りでしたが、子どもたち一人一人が自分の熱気球を持てたので、大いに盛り上がりました。

北高校会場のスクーリングは、10 月 25 日（土）23 組の親子が参加して開催されました。「ホバークラフトを作ろう」に挑戦し、約 1 時間の細かい作業



ホバークラフト発射：北高会場

で完成させ、廊下で走行テストを行ないました。

また、写真のように親と子の共同作業で、とて

もほほえましく素晴らしい光景でした。

工科大学会場のスクーリングは、10 月 26 日の日曜日に 85 組の親子の参加を得て開催されました。

最初のテーマ「星砂で星座絵を作ろう」では、他の会場と同じように子ども達は細かい作業に熱心に取り組んでいました。

次のテーマ「熱気球を作ってうちあげよう」では、従来の大きさで薄いビニール袋を採用した為、



熱気球の打ち上げ：工科大学会場

熱風をドライヤーで送る方式をとれたので、子ども達も打ち上げに参加出来大喜びでした。

3. 第 35 回いちょう祭りへの協力・参加

副幹事 山口三郎

第 35 回八王子いちょう祭りは、11 月 15 日（土）～16 日（日）の 2 日間にわたり、雲一つない爽やかな秋晴れの下で開催されました。2 日間の参加者は 52 万 1 千人を数え、2 日目の日曜日は 28 万 8 千人と過去最高の参加人員を数えました（大会本部発表）。

八王子プロバスクラブからは、佐々木研吾会員（祭典委員会副委員長）の要請により、いちょう祭りの運営に会員が多数参加しています。ここで、主な事業への参加会員を、手記を含めて報告します。

陵南公園本部（C 会場）

主な任務としては、催し物会場の案内業務をはじめ、迷子の対応・落し物等の対応・トイレの管理などでした。2 日間、交代で本部業務に参加されたのは次の 14 名の方々です。

市川昌平・内山雅之・荻島靖久・河合和郎・佐々木正・下山邦夫・高取和郎・寺田昌章・根本照代・野



口浩平・廣瀬智子・八木啓充・山形忠顯・山口三郎（順不同・敬称略）

さらに、下田会員の大道芸の披露や人権・青少年

団体役員として廣瀬会員、レク協関係の塩沢会員、青少年育成団体の立川会員など、各会員のボランティアによる参加は、大会運営を支える大きな力になっています。

八王子市民活動協議会が担当するF会場「わくわくひろば」(長房市民センターとその付近の広場)のイベント開催の一団体として、私の所属する“NPO 法人著作権推進会議”も参加しました。

このイベント「クリスマスカードを作ろう!絵手紙教室」は、長房市民センターに来館する子どもたちに、クリスマスカードを書いてもらい、それを預かってクリスマス前日に届くように投函する企画でした。

絵手紙教室を開くにあたって、法人の会員だけでは心もとないので、プロバスクラブの講師派遣制度を利用して、研修委員会に池田ときえ会員の派遣を申し込みました。

当初、教室は2時間の開催計画でしたが、池田会



員のご好意により2日間フルタイムでのご指導をいただきました。さらに教え子の皆さんにも応援していただき、

充実した指導体制となりました。

初めての絵手紙教室でしたが、予想を上回る参加者があり、両日で絵手紙の指導を受けた方が68名、同伴者、見学者を含めると約150名となりました。子どもたちの熱心に取り組む姿に、会員も一緒に楽しくておりました。

企画としては、教室で作ったクリスマスカードを投函する趣旨でしたが、ほとんどの子どもたちが作品を持ち帰ってしまいました。これは私たちには想定外のことでした。

来年も、是非開催して欲しいとの声もあり、検討したいと思います。

絵手紙教室に参加して

池田ときえ

秋の一日、皆さんとクリスマスカード作りを楽しみました。

カードを開くと立体的なツリーが現れるという趣向が珍しかったのでしょうか。子供も大人も喜んでくださいました。主催者の皆さんにも指導に参加していただき、よき親睦の場となりました。ありがとうございました。

投 稿

少年時代の思い出(冬の編)

山崎 修司



昨年の冬は全国的に寒い冬であった。TV報道によると、北海道の北東の地方では、マイナス30度を超え、日本で一番寒い地方の冬の状況が報じられていた。その地方の出身で、冬期オリンピックで活躍したジャンプの沙羅ちゃんやスキー、スケートの選手が報じられ、TVに釘づけにされていた。

私の生まれは、厚真町という北海道西南の胆振(いぶり)地方の農村地帯である。千歳、苫小牧市と共に、北海道の北東の地と同じ寒冷地帯である。両市に行くのに車で30分、道南を走るJR室蘭本線の早来(はやきた)駅に行くのに8km程の山村であった。当時は、鉱山で使われていたガソリンカーが早来～厚真間を30分程で運行していた。よく脱線して、そのたびに乗客も一緒に手伝って復旧させ、又走り出していた。交通手段がバスに変わったのは、戦後の昭和24～5年頃で、あの“田舎のバスは”の流行歌がはやった頃、がたがたの砂利道を走っていた。

小学校入学は昭和16年で、第二次世界大戦の開戦の年であり、尋常小学校から国民学校に変わった1期生である。中学も新制の1年生からのスタート。当時の田舎の小学校の状況を思い出すまま記す。

当時、人口1万人程の村(現在は5千人の町)に、小学校が7校程あり、その中で村の中心にあった厚真中央小学校に通っていた。同期生は104人で2クラスであった。村内の他の小学校は、全校で12～13人程度のところもあったと記憶する。現在は通学バスの運行で、小学校は東(日高山脈側)、西(海側)と中央の3校とのことである。

小学校は村外れの小高い山の上にあり、校舎はロの字型の学校で、中庭にはテニスコートがあった。学校に行く坂道(約100m)の9合目ほどに、昭和天皇の御真影が大型金庫のような建物の中に有り、先生も生徒も毎朝手を合わせてから登校した。

入学当時、上靴が無く、手編みの藁草履を履いていた生徒も少なく、夏は大部分が裸足であったと記

憶する。冬は毛糸の靴下の裏に布を縫い付けたのを履いていた。教室、廊下、屋内運動場(講堂兼体育館)は、放課後、上級生が毎日雑巾がけをしていて、ゴミ一つなくキレイであったと記憶する。

当時、屋内での運動はドッジボールとバスケットボールぐらいか？跳び箱は7段程度のものが有り、卓球は中学生になってからと記憶する。夏の屋外では、相撲と走る事、五寸釘での釘差し、鬼ごっこ、川の浅瀬での水泳(水遊び?)など。

雪が多い冬は、もっぱらスキーで、学校のグラウンドの横に200m程の坂があり、よく滑りに行った。ジャンプ台も上級生の手作りで、現在の様なゲレンデも無く、自然の山坂や、大川の堤防から氷の張った沼(旧河川)に滑り下りたりして、下校後の時を楽しんだ。

6~7km離れた農家の子供は、冬はスキーで通学していた。ただ、スキーは身長が伸びるに合わせ、2~3年に一度買い替えるのだが、私の場合は、最初は新しいスキーであったが、学校の成績が下がると、新しいのを買ってもらえなく、短いスキーで一冬を過ごしたか、兄の下校前に無断借用したか？定かではない。

橇は高学年の子供の手作りで、各々自慢の橇で早さを競っていた。私は自分で橇を作った記憶は無く、もっぱら兄貴の手製のお下がりだった。友達との滑降競争で負けると、橇のせいにして新しいのを作ってもらった。その時、自分で作っていたらもう少し変わった自分が有ったのかもしれないと、この想い出を書きながら想像している。

さて、その頃の田舎の家の状況を思い出すままに記す。

当時の家は、木造平屋建てが多く、二階建ての家は少なかったと記憶する。ただ1軒だけ四階建ての大地主の家が有った。当時の家は、現在の様な二重窓になって無く、戦後十年頃に出来た公務員(先生)の住宅が、ガラス窓のガラスが二重になっていた。

各家の石炭か薪ストーブの継ぎには銅製の湯沸し器が付いていたが、その湯が料理、洗濯等に使われ、寝るときには湯たんぽに入れ、翌朝の洗面にも使われていた。

冬は零下30度になった時もあり(最近では寒い時でも零下15~6度程度とのことで、温暖化の影響が

出ている)、翌朝には布団の襟掛けが吐く息で真白の霜に覆われていた。家の作りも悪かったためか、ストーブに暖まると前は暖かいが背中の方が寒く、寝る前は背中と腹を交互に暖めてから、湯タンポを入れた布団に潜り込んだものだ。ストーブの有る部屋でも、寝るときは消すので、翌朝は戸袋の酒も氷になっていた。冬は他に果物がなく、ミカンを良く食べたが、綿入りの布で保温をして置かないと氷ミカンとなり、ストーブの上にのせて焼きミカンにしなければ食べられなかった。

食べ物の事になると、当時は牛肉を食べた記憶は無い。鶏肉と豚肉が主で、年末になると豚の片足を仕入れ、2~3kgの大きさに切り、ミカン箱にいれて保存し、正月の料理に使っていたと思う。鶏も正月のお雑煮用などとして、暮れから2~3羽準備していたと記憶する。

終戦後の2~3年は凶作続きで、米所なのに米がなく、両親は親戚の農家から闇米を何俵か仕入れていたようだ。夕食に雑炊を食べた記憶も有る。ただ、それでも空襲の怖さも知らず、米を食べられなかった都会の子供に比べ、平穏な少年時代を過ごしたと感謝している。

随想二話

岩島 寛

飼い猫に教えられたこと



私の家では娘が生まれたばかりの捨て猫を拾ってきたために情が移ってずっと飼っている。もう10年近くになる。夜中はいたずらをされぬように居間に閉じ込めているが、朝一番にドア

を開けると、サッと飛び出し、風呂場へ私を誘い、水を飲みたいと要求するのである。洗面器に水を注いでやるとゴクゴクと時間をかけて飲む。これが毎朝の習慣になっている。

私はハッと気が付いた。朝一番に水を飲むことの大切さは知っていたが、猫は本能的にそのことを行っているのだと。毎日同じ餌をたべて規則正しい生活をしている？猫ですら、毎朝一番に水を飲む。私たち人間も動物なのだから、猫と同じように朝一番に一杯の水を飲むのはごく自然のことではないだろう

うか。

そんな話を家内にしていたら、家中を駆け回っていた猫が私の足に頭をこすり付け、「そうなんですよ、ご主人様」と言って（私にはそう思えた）、また風呂場でゴクゴク水を飲み始めた。

旅の思い出

八月末、家内と娘との三人で軽井沢、蓼科へ涼と自然を求めて小さな旅をした。

御代田から仰ぐ浅間山は雲一つない青空にどっしりと聳えていた。昔、馬子たちはこの山を見ながら小諸馬子唄を歌いつつ馬を引いたのであろう。この辺りは海拔九百メートルもあり、朝晩は夏とはいえ22・23度ととても涼しかった。

小諸から小淵沢までの小海線を全線通じて乗ったのは今回が初めてである。のんびりと2時間余りをかけて高原の景色を心行くまで堪能した。途中の停車駅で赤トンボが乗り込み、ドアが閉まって戸惑っていたので、捕まえて次の駅で逃がしてやった。

蓼科のホテルの水道水は、しばらく触れていると痛くなるほど冷たく、かつ、何の臭いもしないうまい水だった。地球温暖化でうだるような暑さに悩まされる一方で、これほどの清涼な水がこんこんと湧き出る処がある日本は、地球最後の楽園かもしれないと感動しながら帰路に着いた。

同好会活動報告

俳句同好会

飯田富美子

10月21日～22日、俳句同好会では初めての宿泊



吟行会を実施した。雨の予想が外れ、好天気にも恵まれた素晴らしい吟行会日和となった。時

期的には紅葉には少し早かったが、7名の参加者を得て、甲府の昇仙峡、武田神社を巡ることができた。昇仙峡では観光客も少なく、のんびりと俳句の材料を探し、句を練りながら登っていく。昇仙峡の中腹から千ヶ滝まで少々きつい登り坂であったが、全員が滝の頂上まで歩くことができた。頂上付近の食堂

で甲州名物「かぼちゃのほうとう」の昼食をとる。休憩の後、今夜の宿「積翠寺温泉坐忘庵」に向かう。途中武田家三代が起居した躑躅が崎館の武田神社を参拝。ここでも俳句の材料探しに専念する。宝物殿に立ち寄り、戦国時代の鎧、兜、刀などなどを見学する。

そこから10分程の所にある宿に向かう。15時30分に宿に入る。夕食までの自由時間は温泉に入ってもよし、俳句を作ってもよし……。それぞれに信玄の隠れ湯につかり、明朝までの宿題である3句の俳句作りに没頭。

6時30分夕食懇親会開始。私が差し入れをした赤白の一升びんのワインに一同驚く。山梨では一升瓶のワインは当たり前だが、東京では食事処などには出されないの、皆さんは初めての体験とのこと。二次会ではカラオケで日ごろ鍛えた喉を披露。翌朝、8時～10時までの2時間「俳句の会」が開催された。

この吟行旅行の句会では、各自が選句を行い、その中の一句を特選とするところまでは普段の句会と同じであったが、その後、選を1点、特選を2点として、各自の得点を集計し、順位を付けるという趣向が行われた。この新しい評価、採点法の結果、宗匠は別にして、優勝者は不肖飯田富美子であった。これは驚きの極み。賞品に頂いた「はちみつ」は格別に美味であった。

ここで参加者の作品を句のアイウエオ順で一句ずつ紹介する。

峡谷の陽に透かし見る薄紅葉（富美子）

溪流に魚影はしるや初紅葉（征彦）

澄む水の淀みて深し瀟の瑠璃（文彦）

満天星の紅き垣根や座忘庵（文雄）

初もみぢ紅秘めて陽にまぶし（和郎）

みむらさき二十四将の夢眠る（忠顯）

山粧ひ大滝小滝岩を咬む（信昭）

宿を出立、県立美術館に向かう。しばし美術鑑賞に時を過ごす。昼食は駅前の老舗「奥藤蕎麦屋」で、B1グランプリの大会で優勝した「とりもつ煮」と蕎麦を楽しむ。皆さん、とりもつ煮が気に入り、ビールと酒がすすむ。ここで打ち上げとなり、甲府駅から帰路についた。

皆さん2日間お疲れ様でした。河合先生には大変ありがとうございました。

「5千年前の火焰型土器に触れる旅」

池田ときえ



11月1日
～2日、里山の紅葉が美しい新潟で
火焰型土器を探訪して

きました。プロバス会員10名、外部参加者4名、案内・解説をしてくださる県専門員の山本さんと総勢15名の賑やかな旅でした。

今回は十日町、津南、長岡で火焰型土器の主な展示館のすべてを訪れました。



① 十日町博物館

国宝の土器群があります。
(写真は国宝の土器と指定書)
初めて実物を見た方には印象
深い展示だったようです。

② 津南町農と縄文の体験実

習館「なじょもん」

津南周辺の土器を展示しています。整理室では収蔵品を手にとって見ることができました。

③ 津南町歴史民俗資料館

豪雪地帯の秋山郷の暮らしと歴史の展示です。

④ 馬高縄文館

火焰型土器発祥の地。ここの出土第1号が火焰土器と呼ばれます。以降の同型土器は火焰型土器です。小さな館ですが土器の展示数は一番多い所です。

⑤ 県立歴史博物館

縄文部門に力を入れている博物館です。実物大のジオラマが素晴らしく、村の秋のシーンでは自分も縄文人の一人になったような気分でした。

⑥ 長岡市立科学博物館

長岡の自然と歴史を展示。火焰土器の流れを汲む栃倉遺跡の土器があります。中越地震後の文化財修理の展示が特に印象に残りました。

連日の土器めぐりで、みなさんだいぶお疲れでしたが、山本さんの専門的な解説のおかげで、どなたも火焰型土器のエキスパートになられたようです。

宿「雪国」の温泉、食事を楽しみ、懇親も深めました。皆さまのご協力に感謝致します。

私の一句～11月の句会から

朝夕はめっきり冬めいてきた。しかし、小春の日の解放感もまたこの季節の醍醐味。そんな日々、メンバー諸氏は自在に俳句づくりを楽しんでいる。

チボー家に老いを忘るる夜長かな 山形 忠顯

秋の夜長に大河小説「チボー家の人々」を読み耽る。俳句よし。老いを越えた日々を讃。

青光る酢じめ秋鯖厚く切り 石田 文彦

今回の最高点句。手料理の楽しみをうまく詠んでいる。味の方も美味疑いなし。

小春日や日向拾ふて逢ひにゆく 池田ときえ

何やら趣のある一句。作者のはつらつとした日常生活を彷彿とさせる。人生まだまだの感。

散もみち右に左に鳴子峡 立川富美代

紅葉の吹雪に包まれた鳴子峡。その中に身を置く作者。景色が眼前に迫ってくる臨場感。

感謝祭ロバの車に荷が溢れ 田中 信昭

外国の旅先での一句。いつでもどこでもの一句は素晴らしい。「荷が溢れ」に感謝祭の賑いが。

七五三フランス料理の祝ひ膳 飯田富美子

七五三とフランス料理の取り合わせが面白い。国際化もついにここまで。この子たちもきっと。

ランダムにあたり染めなす柿紅葉 東山 榮

柿紅葉の美しさをうまく詠んで佳句。「ランダム」の表現が言い得て妙。横文字も使いよう。

寄せ鍋を囲む団欒いま二人 馬場 征彦

昔は子どもたちに囲まれて賑やかだった。しかし今は……の淋しさがよく出ている。佳句。

老いてなほ鬼灯鳴らす妻ありき 渋谷 文雄

鬼灯に在りし日の妻を偲ぶ。切なくもほのぼのとした一句。鬼灯の鳴る音が聞こえてくるような。

大岩に挑む一筋鳶紅葉 河合 和郎

10月の吟行会の折、昇仙峡での作。荒々しい岩肌に挑戦するような一筋の鳶の紅葉に惹かれた。

編集後記：編集作業に焦っている日々、突然衆議院が解散、赤穂浪士討ち入りの日の14日が投票日とか。野外研修でゆったりとした時の流れを満喫した後だけに、改めて師走を迎える心の準備をと思うところです。 編集担当：磯 洋一